

i.care 放課後等デイサービス自己評価表

2019年度

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○			スペースの関係で、定員を少なく設定していますが、ニーズや利用希望にこたえるために、新たな活動スペースの確保を計画しています。
	2	職員の配置数は適切であるか	○			医療ケアの必要な利用者に十分にケアできるよう、毎日複数の看護師を配置しているほか、ケアに必要なスタッフを十分に配置しています。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか		○		既存テナントを改装してバリアフリー化していますが、十分とは言えず、より活動のしやすいスペースの確保を計画中です。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	○			業務手順書を作成して問題があった場合は見直しをしています。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか		○		複写式の連絡用紙・記録用紙で、常に情報を家族と共有し、要望を汲んで改善につなげています
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○			ホームページで公表しました。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか			○	正式な外部評価は行っていませんが、学校の教員・見学者・家族その他の出入りが豊富で、常にフィードバックを受けています。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○			多機能の生活介護を含め、医療ケアの必要な利用者が多いので、特に医療ケア技術についての内外研修を多く取り入れています。看護職員以外の職員も喀痰吸引の技能研修を受け、修了・登録している職員が多数います。
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか		○		複写式の連絡用紙・記録用紙で、常に情報を家族と共有し、共同して状況や課題を設定し計画に反映しています。
	10	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか			○	今後の課題です。重度重複障害の子どもについての有効なアセスメントツールが少ない現状にあります。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○			担当者を中心に、常に職員チームで連携して、出来るだけ多様な活動を企画しています。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○			重心の利用者がほとんどのため、油断すると固定化してしまうので、特に注意・工夫して計画しています。

適切な支援の提供	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	○			休日など学校が無い日は個別の健康管理を考えたマッサージやストレッチで身体を動かしやすいようにしてから集団で取り組める活動を行っています。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			個別に医療的なケアや課題を明確にしながら、集団での活動をできるだけ増やすように工夫しています。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○			終了後に翌日の打ち合わせを兼ねるために、開始前の打ち合わせは簡単な確認や変更周知のみです。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○			終了後にその日出勤の職員全員で欠かさずミーティングを行い、振り返りを行っています。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○			複写式の記録用紙を用いて、家族との間の引継ぎと職員の検証のための記録を併用しています。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか		○		日々のミーティングでの振り返りで必要なことは、すぐに見直しに取り入れるようにしています。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか	○			重心の利用者中心という特性でありながらも、出来るだけ様々な活動や社会参加が出来るよう、工夫しています
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○			医療的な問題については看護師が入り、療育的な問題については児童発達支援管理責任者が参加しています。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	○			学校とは常に連携を密にし、連絡調整を欠かさず行っています。また、学校からの生徒の活動参加や、学校への協力依頼など、双方向の連携をとっています。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	○			重心児童専門の事業所として、事業所の看護職員を中心に、主治医・嘱託医との連携は欠かさず行っています。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	○			必要に応じて療育センター等の機関と情報共有に努めています。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか			○	今年初めて、卒業して他の生活介護事業所に移行する利用者が出ました。以降はこれからですが、相談支援事業所等と連携して、十分な引継ぎを行う準備があります。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか			○	今後の課題です。

	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか			○	事業所としては今後の課題です。ただし、事業所の活動以外では、NPO法人の活動を通じて様々な機会があります。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか			○	今後の課題です。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○			家族との双方向の記録用紙を通じて子供の状況を共有し、共通理解を密にしています。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	○			事業所の活動にも積極的に参加してもらい、家族への支援も十分に視野に入れています。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○			契約の際に丁寧に説明しています。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○			医療的な相談と療育的な相談があった時は情報提供を含め助言を行い、必要に応じて関係機関への連絡を取っています。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	○			保護者同士の情報共有の場の企画を支援するなど、連携を支援しています。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○			苦情受付の体制は整備していますが、今のところ正式な苦情はありません。また、保護者からの要望等は真摯に受け止め、活動の改善に取り組んでいます。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○			通信を3か月に1回発行し関係者に配布するとともに、Facebookを随時更新して情報発信しています。
	35	個人情報に十分注意しているか	○			上記Facebookに写真も掲載していますが、保護者の了解を得たものについてのみ掲載しています。
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○			障害の程度が重く意思疎通の難しいお子さんが多いので、時間をかけ表情などの反応を待って意思疎通を図るようにしていたり、様々なツールを活用して意思を汲み取る工夫をしています。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	○			第2回の事業所でのフェスタの開催も成功し、また、地域のイベントにも参加しています。
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか		○		基本的なものは備えていますが、周知・改良は今後の課題です。

非常時等の対応	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○			ほぼ全員車いすでの避難となるため、実際に避難場所への誘導を行うなど、定期的な訓練を実施しています。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○			虐待防止の事業所内の研修を実施しました。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか			○	やむを得ない場合の身体拘束が想定しづらいため、サービス計画に明記することはしていませんでしたが、想定できることについて今後記載していきます。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○			保護者からの聞き取り、医師の医療的ケアの指示書に基づいて行っています。調理実習においても特に注意を払って実施しています。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか			○	事例集は作成していませんが、発生の都度共有しています。